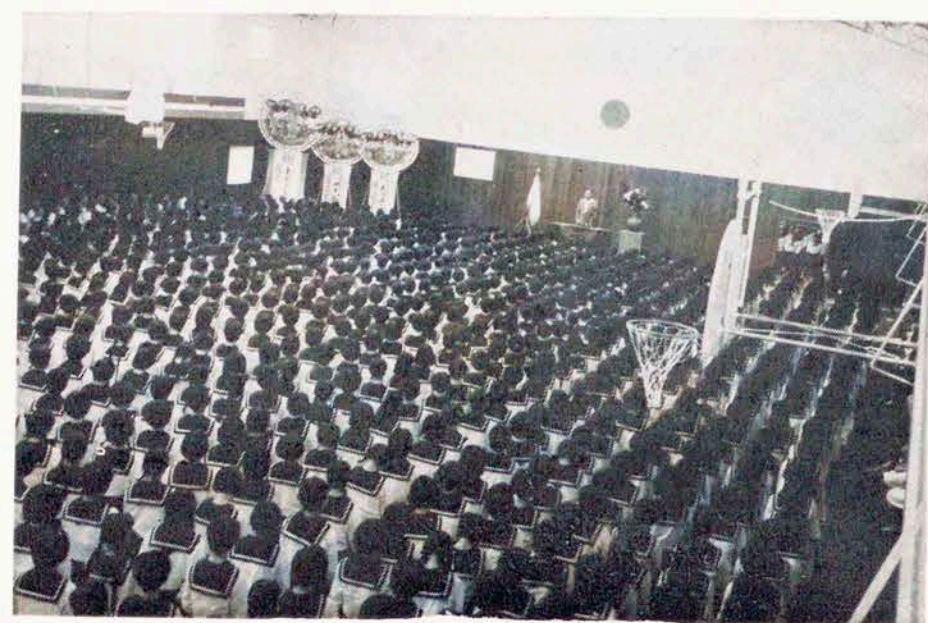


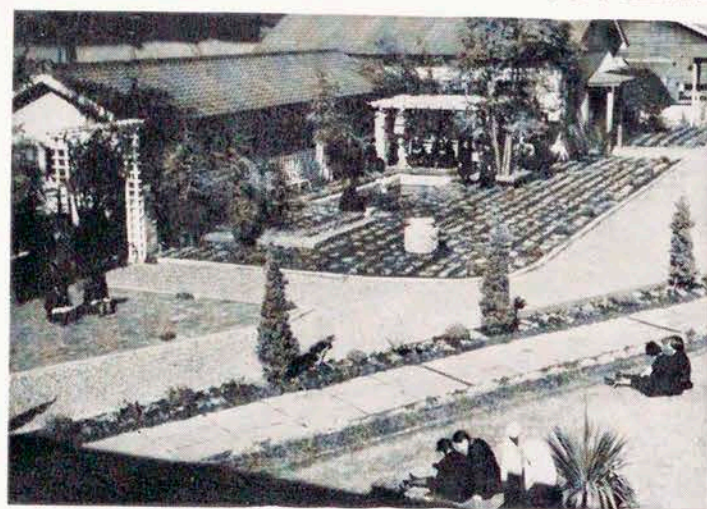
ひめまつ

第17号

宇都宮須賀高等学校生徒会



校長先生藍綬褒賞受記念式典

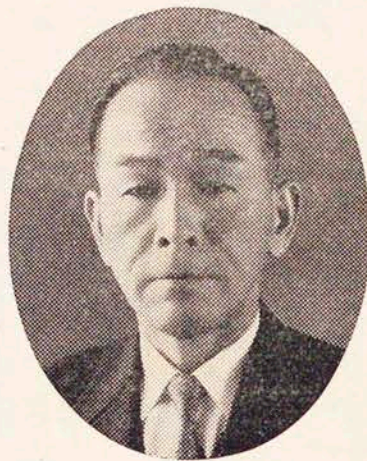


校 内 風 景



第三回定期音楽会 ハレルヤ・コーラス





巻頭言

学校長 須賀友正

一九六二年は、実に波瀾に富んだ年であった。いわゆる十大ニュースなどを見ても、国内・国外共に瞳目に価するような大事件がおこっている。今年に更に波瀾を重ねる年であるかも知れない。しかし、その波瀾は永い目で見れば不安解消の波瀾であり、理想社会の産みの痛みであろう。そして、最後の、善意に満ちた、温かい愛と、正しい理解とは、人間社会に絶対必要な根本原理である。学校教育というものは、こうした理念の上に打ち立てられなければならないものであり、本校もこの原理の上に建てられた学園である。学校は世界の縮図である。従って世界の波瀾から逃れることは出来ない。しかし、荒浪は出来る限り回避して平和境を拓き開いて行きたい。これが学校教育の理想である。

生徒諸子は、生涯の中で一番大切な青春の一時期を、この学園で過すのであるが、その青春が悔いのなきものとなるかどうかは、諸子の学園生活の如何によって決定されるであろう。しかし、それる決定する者は、諸子自身であって、学園の環境は直接のものではないのである。

本年度の諸子は、学習の面においても、クラブ活動に於ても、真剣な努力が見られ、真に悔のない学校生活を展開して下さったことは、私の最も喜びとする所である。文化部・体育部各部それぞれに輝やかな成績を残したが、特に多とすべきは、音楽部の活躍で、十二月初め、NHK全国高校音楽コンクールに、全国第二位の好成績を残したことであった。

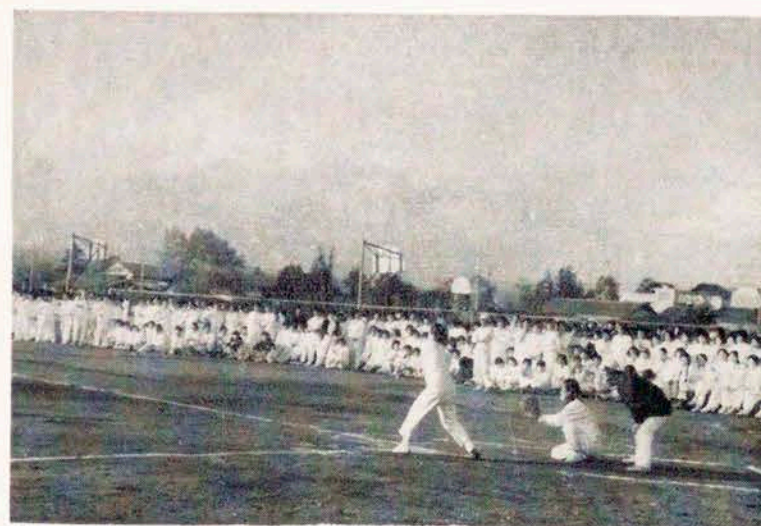
本年度の掉尾をかざる「ひめまつ」第17号発刊にあたり一言を求められたので、以上思いつくままを述べたが、本学年もあます所わずかなった。諸子は、自分自身を十分に知ること、一層の努力をすすめてもらいたいと思う。そこから、更に自身を尊敬する気持を養うことになり、このことは諸子の将来に期待する社会にとってもはなはだ大切なことなのである。



昭和37年度NHK器楽合奏コンクール
全国第二位入賞のオーケストラ部



裏磐梯キャンプ教室



第二回秋季校内球技大会



今年も大活躍の弁論部



奮戦するバスケット部

